

症例・実践報告

## 看護学生の自己教育力を高めるための学習方法の検討 — 小課題達成積み上げ学習法を取り入れた学生の感想の分析 —

小磯京子, 長島 緑

つくば国際大学医療保健学部看護学科

**【要 旨】** 本研究の目的は、これまで実施してきた成人看護学の授業方法として小課題を取り入れた予習が、学生自身の自己教育力との関係を明らかにして授業改善に役立てることである。対象は看護専門学校2年次の学生40名の記述した『小課題についての感想』とした。記述された文章をコード化した後、内容分析を行い、小課題による学習方法を考察した。分析の結果、35のコード化をし、12のサブカテゴリーが抽出され、【学習効果】【小課題の検討】【検討課題】の3のカテゴリーに集約された。

予習学習として小課題を与えることは、学生にとって一つ一つ学習課題を積み上げることであり、次の授業内容のイメージ化を図り、学生が興味を持って授業に臨む等の学習意欲につながった。

また、課題を遂行することにより学生の内発的動機付けとなった。さらに図書室の利用の増加は、学生自身の学習環境や学習方法を作りだし確立していく、学習の動機付けとなり自己の教育力の育成につながることを示唆された。(第4号：41-50頁/2012年9月10日採択)

**キーワード：**看護学生, 自己教育力, 学習方法, 授業方法

### 序 論

成人の学習においては、自ら学習の課題を見出し学習計画に基づき、自己の責任のもとで学習することが重要視されている。そして、今回の看護基礎教育においても対象となる学生は、成人期にあり同様の学習スタイルが求められている。しかし、今日の学生の背景は多様化し自主的・主体的に学んでいるかと考えると、一昔前のような学生気質と違っている。最近よく見

られる事では提示したことでは行おうが、反対に指示されなければ自ら実施しないなど無気力な傾向があると言われている。

学習者の意欲と自己統制に関して佐藤と森(1998)は、予習・復習を主体的に毎日行う者は、目標達成の意欲が高い傾向が認められ、逆に予習・復習をしない者は目標達成の意欲が最も低く、自己統制も低い傾向にある。

自己教育力の年次的視点に関して多久島ら(2005)は、入学1年から2年次に低下し、3年次に高くなると提示している。このような変化の背景には、現実との直面、自信の喪失、進路の見直しなどがある。

教育の実践教育で稲川(1987)は、学生自身が主体的に学ぶためには、自分を教育する力であ

連絡責任者：小磯京子  
〒300-0051 茨城県土浦市真鍋6-8-33  
つくば国際大学医療保健学部看護学科  
TEL: 029-826-6622  
Email: k-kois@tius.ac.jp

る自己教育力の育成が重要である。そして、自己教育力を身につけるためには、自己学習の方法を身につけなければならない。また演習や実習などの少人数教育や実践教育が主体的な学習につながると言われている。

看護についての学習方法について佐藤と森(1998)は、看護は専門的な学習が多いため、学習に興味や関心が持てるように動機付けし、学習方法が身につくよう、相談や助言をすることが大切である。さらに習慣化する学習について北尾(1980)は、個々に解決できない学生に対しては、内発的動機付けができるような支援が必要である。そのためには教師主導の授業から学生主体の授業の場を多く設け、自らを振り返る自己評価の方法がわかり習慣化し、自発的に自己評価ができるようになることである。さらに効果的な授業展開として岩田(2002)は、学生主体の効果的な授業展開を検討するために重要なものは教材の検討である。

この授業の事前調査にて、事前学習の有無を確認した。学生は予習等の事前学習を行わずに授業に臨む者が75%と非常に多く、予習していないことが明らかになった。

しかし、学生は授業中、比較的受身的になりやすく、問題解決の思考や創造的思考を喚起し自主的に学習を展開するにはかなり工夫が必要である。そのため授業を展開する教員にとって、学習意欲につながる教材の工夫は大きな課題である。

そこで、授業の検討として小課題を提示し一つ一つ達成することにより学習を積み上げる方法を取り入れた(以下本学習法とする)。その学習方法を実施した結果については、学生から授業終了後の感想内容を分析した。この学習方法は看護基礎教育における授業方法の一つとして、どのように学生の内発的動機付け及び自己教育力に影響するかを検討した。

## 研究目的

本研究は、看護学生を対象に、成人看護学方

法論における授業で展開した小課題達成積み上げ学習法が学生の内発的動機付け及び自己教育力への影響について検討することである。

## 用語の操作的定義

### 1. 小課題

授業を理解するために必要な重要用語及び重要事項

### 2. 小課題達成積み上げ学習法

学生は事前学習として小課題として提示された重要用語・重要事項についてテキストや文献等を活用しまとめる。次に授業の中で自ら行った課題内容を確認し、自己学習に反映させる方法である。

### 3. 自己教育力

本研究では、文部省(1983)の「主体的に学ぶ意思、態度、能力などをいう」と定義しているものとする。

## 本授業に関わる履修状況

1年次に、人体構造学、人体機能学、栄養と人体、薬理学、病理学概論、基礎看護学、成人看護学概論と2年次に成人看護学方法論Ⅰの経過別看護(急性期・慢性期・回復期・終末期)を学んでいる。

## 成人看護学方法論Ⅲの学習目標・内容

学習目標は、健康障害された成人期にある対象の起こりうる諸問題を理解し、さまざまな身体機能の障害をもつ対象とその家族に対する看護の方法を学ぶことである。

方法論Ⅱ(2単位：90時間)では生命維持機能に障害のある対象への看護を学び、方法論Ⅲ(3単位：90時間)で、栄養と代謝機能、意識と運動の機能、身体防御機能、そして性と生殖機能のそれぞれの側面からとらえた看護を学ぶ内容となっている。本授業は方法論Ⅲの栄養と代謝機能に障害のある対象への看護の消化・吸収・

代謝に障害のある対象への看護の15時間である。

## 対 象

S 専門学校 3 年課程看護学校で学ぶ 2 年生 41 名(女性 36 名、男性 5 名)で研究趣旨に同意が得られた学生 40 名である。

## 方 法

### 研究デザイン

質的帰納的研究である。

### 研究期間

平成 18 年 4 月～ 6 月である。

### 小課題達成積み上げ学習法の実際

#### 課題指導の手続き

用紙は B 5 サイズとし、6 回の課題に対して、次の 8 点を考慮して提示した(図 1)。

- ① 授業終了前に次回授業の内容と課題の説明をする。
- ② 授業前に学生は課題を提出する。
- ③ 教員は確認し不足部分をコメントして返却

時	課題内容	指導手続き
	●学習内容と授業方法・学習方法を助ける小課題についてのオリエンテーション (各授業の中の約 15 分間を設定)	
1 回	・ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌として内服薬を投与するが、服薬指導する際の留意点について	
2 回	・胃切除後の合併症として現れる栄養吸収障害について	
3 回	・腸の切除術を受けた患者の飲水の制限の意味について ・ダンピング症候群について	
4 回	・ストーマサイト・マーキングの原則について(図示) ・ストーマ造設後の局所の合併症について	
5 回	・結石の 5 F について ・PTCD 挿入時の観察項目について	
6 回	・食道静脈瘤の破裂予防の看護について ・破裂時の看護について	
試験	●試験問題の 1 つに小課題から 1 題、出題することを学生に事前に提示	

図 1. 小課題達成積み上げ学習法の実際

する。

- ④授業中に何人かの学生が発表する。
- ⑤学生自身が課題に追加・修正をする。
- ⑥教員は課題の解説をして確認させる。
- ⑦次回の授業導入時に振り返りをする。

### データ収集の方法

授業終了後に学生に小課題を取り入れた授業に対する感想について記述してもらった。

### 倫理的配慮

研究の趣旨として、今後の授業構築・授業改善の資料とすることを説明し協力と同意を求めた。用紙には無記名で個人が特定されないこと、白紙での提出も可能であること、参加は自由意志によること、参加・不参加に関係なく成績評価に不利益が生じないこと、研究結果の公表もあることを口頭と文書にて説明し、同意を得た学生のみ回答してもらった。回答の提出を持って同意を得たとした。

### 分析方法と信頼性の確保

授業に対する感想は自由記述とした。分析については、まず学生の感想の文章から、意味の背景をなす文脈部分を1つの文章単位としてコード化した。さらに内容的に類似性をもつコードを集めてサブカテゴリーとし、類型性を検討してカテゴリー化した。分析にあたっては、質的分析の経験のある研究者2名により考えが一致するまで討議を繰り返し信頼性を高めた。(図1)

### 結果

看護学校で学ぶ2年生41名に配布し、回収率は97.6% (40名)であった。

小課題授業導入についての感想的自由記述か

ら抽出された内容は35コードに分類された。さらに12のサブカテゴリーを抽出し、3つのカテゴリーを抽出した。3つのカテゴリーは【学習効果】【小課題の検討】【検討課題】に集約された。以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを(《 》)で示す、コードを表1に示した。

以下にカテゴリー別に学生の記述を(「 」)で示す)を述べる。

1) カテゴリー【学習効果】では、《学習イメージ》、《学習への興味》、《学習の発展》、《予習学習》、《復習学習》、《試験学習》の6つのサブカテゴリーから構成された。

サブカテゴリー《学習イメージ》では、「自分で調べたので授業のイメージがしやすかった」、「授業前に調べて授業に臨んだので内容が解かりやすくなりイメージしやすかった」という記述がみられた。

サブカテゴリー《学習への興味》では、「興味をもって自主的に学べた」、「授業に興味を持って臨めたと思う」、「授業の前に自分で調べたので興味がわいた」、「楽しく授業が受けられたので続けたいと思った」という記述がみられた。

サブカテゴリー《学習の発展》では、「図書室に行くことが多くなった」、「文献を調べるために図書室に行く回数が増えた」、「調べるという習慣になると思った」、「テキストには詳しくないので文献やインターネットを活用した」、「テキストや文献を積極的に活用できた」という記述がみられた。

サブカテゴリー《予習学習》では、「予習になったのでよかった」、「いつもは予習しないので事前に調べることは自分のためになると思う」、「その都度調べたので自己学習になった」という記述がみられた。

サブカテゴリー《復習学習》では、「復習しやすいのでよかった」、「内容がまとまっているので振り返りがしやすかった」という記述があった。

サブカテゴリー《試験学習》では、「国家試験の出題傾向の為覚えようと思った」、「国家試験

に出題される内容になっているので調べることでより学べた」、「授業の中で課題が完成するので試験勉強になると思った」という記述がみられた。（表1）

2) カテゴリー【小課題の検討】では、《課題量》、《課題内容》の2つのサブカテゴリーから構成された。

サブカテゴリー《課題量》では、「ちょうどよい量で調べやすかった」、「他の課題もあったので、このくらいの量だとまとめやすかった」、

「課題の量が負担にならないで学習できた」、「ポイントがつかみやすい量だった」、「内容の多いレポートより、やる気が起きた」という記述がみられた。

サブカテゴリー《課題内容》では、「授業の中でも振り返るので学びが深まった」、「前回の課題の振り返り確認できるので学びが深まった」、「他の学生が調べた内容も聞くことができ勉強になった」、「調べてきた課題が合っているのか確認できるので勉強になった」という記述があった。

表1. 小課題に対する学生の感想

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
学習効果	学習イメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で調べたので授業のイメージがしやすかった</li> <li>・授業前に調べて授業に臨んだので内容が解かりやすくなりイメージしやすかった</li> </ul>
	学習への興味	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味をもって自主的に学べた</li> <li>・授業に興味を持って臨めたと思う</li> <li>・授業の前に自分で調べたので興味がわいた</li> <li>・楽しく授業が受けられたので続けたいと思った</li> </ul>
	学習の発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室に行くことが多くなった</li> <li>・文献を調べるために図書室に行く回数が増えた</li> <li>・調べるという習慣になると思った。</li> <li>・テキストには詳しくないので文献やインターネットを活用した</li> <li>・テキストや文献を積極的に活用できた</li> </ul>
	予習学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習になったのでよかった</li> <li>・いつもは予習しないので事前に調べることは自分のためになると思う</li> <li>・その都度調べたので自己学習になった</li> </ul>
	復習学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習しやすいのでよかった</li> <li>・内容がまとまっているので振り返りがしやすかった</li> </ul>
	試験学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験の出題傾向の為覚えようと思った</li> <li>・国家試験に出題される内容になっているので調べることでより学べた</li> <li>・授業の中で課題が完成するので試験勉強になると思った</li> </ul>
小課題の検討	課題量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょうどよい量で調べやすかった</li> <li>・他の課題もあったので、このくらいの量だとまとめやすかった</li> <li>・課題の量が負担にならないで学習できた</li> <li>・ポイントがつかみやすい量だった</li> <li>・内容の多いレポートより、やる気が起きた</li> </ul>
	課題内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中でも振り返るので学びが深まった</li> <li>・前回の課題の振り返り確認できるので学びが深まった</li> <li>・他の学生が調べた内容も聞くことができ勉強になった</li> <li>・調べてきた課題が合っているのか確認できるので勉強になった</li> </ul>
検討課題	学習の大変さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストに無いと調べるのが大変だった</li> <li>・最初は面倒くさいと思った</li> </ul>
	用紙の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し大きい方が良い</li> <li>・用紙がB5サイズなのでA4でもよかったと思う</li> </ul>
	解答の提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で模範回答を提示してほしい</li> </ul>
	学習期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日数がないと調べるのが大変だった</li> <li>・日数があると忘れてしまう</li> </ul>

3) カテゴリー【検討課題】では、《学習の大変さ》、《用紙の検討》、《解答の提示》、《学習期間》の4つのサブカテゴリーから構成された。

サブカテゴリー《学習の大変さ》では、「テキストに無いと調べるのが大変だった」、「最初は面倒くさいと思った」という記述がみられた。

サブカテゴリー《用紙の検討》では、「もう少し大きい方が良い」、「用紙がB5サイズなのでA4でもよかったと思う」という記述があった。

サブカテゴリー《解答の提示》では、「授業の中で模範回答を提示してほしい」という記述があった。

サブカテゴリー《学習期間》では、「日数がないと調べるのが大変だった」、「日数があると忘れてしまう」という記述がみられた。

## 考察

### 小課題達成積み上げ学習法の効果

小課題を実施した学生の感想に対する分析から、学生の反応は【学習効果】【小課題の検討】【検討課題】という3のカテゴリーが挙げられ、学習方法としての小課題達成積み上げ学習法は、分析の結果からこれらを構成するサブカテゴリーの内容より学生への学習における内発的動機付けとなることが示唆されたと考える。

岩田(2002)によると、成人学習者の学習意欲は、内発的な動機に支えられており、この内発的な動機が学習を継続させるために重要となる。さらに岩田は、学生の授業内容の理解に関しては、どれだけイメージできるかが、大きく左右されると言われている。

本学習法を実施した学生の感想の分析より、これらに該当するサブカテゴリーは、内発的動機に関してはサブカテゴリー《学習への興味》とイメージに対してはサブカテゴリー《学習イメージ》のそれぞれを抽出した。

舟島と杉森(2002)によれば、学生は適切な自己評価を行えば、そこから自己の課題を見出

すことができ、自ら学習への動機づけを高めていける存在とあり、本分析では、具体的には「事前に調べることは自分のためになると思う」、「その都度調べたので自己学習になった」、「内容がまとまっているので振り返りがしやすかった」という自己の評価であった。

さらに分析の結果得られた内容では、サブカテゴリー《学習の発展》につながった。具体的には学生は、「図書室に行くことが多くなった」、「テキストには詳しくないので文献やインターネットを活用した」、「テキストや文献を積極的に活用できた」と述べていることから、小課題を実施した後に自己評価していることがわかった。また、「国家試験の出題傾向の為覚えようと思った」といった本学習目的以外に自己の目標を見いだしていた。

### 小課題達成積み上げ学習法と自己教育力

本学習法の教育プロセスには、7つの段階を設けた。学生が自ら学習する姿勢をもち自己の教育力を育成するには、学習のイメージ化と学習への動機付けをすること、持続して学習する環境が重要である。本学習法は、学生が自己の教育力を育成するために必要な『イメージ化』『動機付け』『環境』に対して遂げるために7つの段階を設け、①授業終了時に次の課題の提示(教員)、②課題提出(学生)、③コメント・返却(教員)、④発表(学生)、⑤追加・修正(学生)、⑥課題解説(教員)、⑦前回の振り返り(教員)を設けることにした。

分析により、学生にとって小課題を一つ一つ丁寧に達成していく過程が学習への内発的動機付けとしては大変重要であることが今回明らかになった。そして、学生自身が調べた内容が「これでよかったのか」の確認と、他の学生が調べた内容を聴くことによって、さらに学習内容を確認していく過程をもつことは、さらに学びを深める結果となった。この一連の本学習法のプロセスを行うことは学習の重要ポイントを確認でき追加修正することにより、学生自身の課

題遂行の評価も行うことができた。

小課題の内容は、今回の授業の中でおさえたい重要なポイントであると同様に、今回の授業までの期間までにまとめることが、成人期にある学生にとっては、自己の学習を継続していくことにつながると考えられる。受け身的授業参加の流れを変える意味においても本学習法は学生の学習の内発的動機につながり、さらに学習効果が期待できる学習方法である。

さらに学習方法を検討する上で、課題の内容、課題量、用紙、課題遂行の意識の喚起は重要な要素である。

分析より、課題の内容・テーマについてはサブカテゴリー《課題内容》で表現された。学生は「授業の中でも振り返るので学びが深まった」、「前回の課題の振り返り確認するので学びが深まった」、「他の学生の調べた内容を聞くことができ勉強になった」、「調べてきた課題が合っているのか確認できるので勉強になった」と表現し、《課題内容》としては、イメージ化することができている。

松沢と鈴木(2009)は、看護学生が卒業後に、適切な判断のもとに看護を実践するには、学生生活中から能力を磨かなければならない。自己教育力の習得と、その育成のための支援の必要性が強調されており、概ね学年進行とともに自己教育力が発達していくと報告されている。

学生は1年次後期から2年次は専門科目が増え、内容も難しくなり学習目標の達成困難感や自信喪失につながりやすい時期でもある。しかし、反対にこの時期に本学習法を取り入れることにより、計画的に地道な努力をして自己学習を積み上げた学生は、学習に対するモチベーションが高くなることが分析結果、カテゴリー【学習効果】で確認できた。この本学習法は、学習に対する動機付けとなったことが考えられる。

アンドラゴジー(成人教育学)では、成人の学習への方向付けはより即時的で、問題解決中心あるいは課題達成中心の学習内容の編成がより好ましいと示している(佐藤, 2002)。学生を成人である学習者と理解したうえで課題を提示し、

授業展開としては前回の課題を振り返ることで学習した内容を想起する。また、課題内容を発問することにより授業への参加を求めていく。そして、課題内容が達成された事により達成感をもつ。この学習手続きが学習へのモチベーションを高め内発的動機付けにつながることが期待できる。

また、牧野ら(2009)は、図書館の利用や情報システムの活用は自己学習の環境と方法の確保につながり、情報活用の実践力は自己教育力と情報化社会で必要とされる能力の育成につながると報告している。分析結果からサブカテゴリー《学習の発展》として学生は「図書室に行くことが多くなった」、「テキストには詳しくないので文献やインターネットを活用した」と表現し、自己学習の環境と学習方法の確保のために図書室を活用していた。これは課題を遂行するため図書室を利用し、必要な文献や記録の整理に活用しているためである。しかし、図書室の利用目的が課題提出やテスト勉強である可能性が高く、自己学習につながっているのかは疑問がある。しかし、この自己の行動は自身の学習環境の拡大、自己の学習方法を作り出し、確立していくことにつながる。

河野と梶田(1987)によれば、看護職は、状況に応じて自ら判断して看護する場面が多く存在するため、その原動力となる主体的に学ぶ意思、態度、能力、すなわち自己教育力を身につけることは重要である。自己教育力はどんな変化がおきてもその変化に主体的に対応して生き抜いていける能力、態度であるとあり、自己の学習方法の確立は、専門職者として求められる適切な判断力による看護実践に必要とされる自己教育力の育成につながる。

本学習法は自己の学習方法を確立していく過程で有効であることを確認することができた。

#### 小課題達成積み上げ学習法の課題

学習方法のプロセス以外に今後検討することについては、カテゴリー【検討課題】が抽出さ

れた。内容的には、課題の量では、サブカテゴリー《課題量》で表現された。学生は、「ちょうどよい量で調べやすかった」、「他の課題もあったので、このくらいの量だとまとめやすかった」、「課題の量が負担にならないで学習できた」、「ポイントがつかみやすい量だった」と表現し、量的には適切であったと考えられる。

反対に、課題の内容・テーマがテキストになかった場合には、学生は文献を探すことになる。サブカテゴリー《学習の大変さ》で表現している。学生は、「テキストに無いと調べるのが大変だった」、「最初は面倒くさいと思った」とあり、学生の中には調べるといふ過程が苦痛になっている学生のコードがあった。この学習の困難感、軽度であれば良いが、学習の困難感が積み重なると学習意欲の低下を招きやすい。そのため、今後は学習意欲を高める上でも参考文献等の紹介や文献活用方法等について指導する必要性を感じた。

また、サブカテゴリー《用紙の検討》では、「もう少し大きいほうがよい」、「A4サイズでもよかったと思う」とあり用紙の大きさに不満を感じている学生のコードもあり、文献を調べることにより詳しく情報を得ることができているためと考えられ今後は用紙サイズの検討の必要性を感じた。

サブカテゴリー《解答の提示》では、学生は「授業の中でも模範解答を提示してほしい」とあり、今後も継続して授業内で伝え、学習の重要ポイントを確認していく必要があると考えた。

また、サブカテゴリー《学習期間》では、学生は「日数がないと調べるのが大変だった」、「日数があると忘れてしまう」とあり、次回の授業の間に、実習や行事が入ってしまうと次の授業までの期間が長くなってしまいうため、課題を忘れてしまう学生も少数あった。これに対して今後は課題提出の自己責任の注意喚起の必要性がある。

## 結 論

1. 小課題達成積み上げ学習法は授業のイメージ化を図り、理解を深めることができた。
2. 小課題を積み上げて学習することによって、学習意欲の持続と学生の自己教育力の育成につながった。

## 研究の限界と今後の課題

今回の調査では、2学年業の1講義のみの調査であることや、小課題が授業の教材として学習効果につながったが直接的に自己教育力の育成につながるとは一般的には言えない。また、データを収集するための質問方法も感想のみとしたため具体的ではなく十分とは言えない。

看護を目指して入学してきた学生の中には適性への不安や患者との関係性に悩み、進路に迷う者が増えている。自己学習能力、問題解決能力、状況判断能力の3つの能力は学生の時に身につけてほしい能力である。しかし、目の前の問題や状況について解決できない学生に対しては学生自身が学習への手ごたえや目標をもって学べるように支援していかなければならない。そのためにも自己教育力の育成に繋がる教材の工夫が必要であると感じた。

今後は大学の全入学制の状況、社会人入学等、学生の質も多様化している中、個別な指導も検討する必要がある。

## 参考文献

- 稲川三郎(1987) 自己教育力を育てる指導の実際. 黎明書房, 東京.
- 岩田浩子(2002) 看護教育における学習活動と教材検討. 照林社, 東京.
- 河野茂男, 梶田叡一(1987) 子どもの自己教育力を高める. 金子書房, 東京.
- 北尾倫彦(1980) 自己教育力を育てる先生, 日本図書文化協会, 東京.



- 佐藤栄子（2002）中範囲理論．日総研，東京．
- 佐藤みつ子，森千鶴（1998）自己教育力と家庭での学習状況との関連．山梨医大紀要．15:22-27.
- 多久島寛孝，永田華千代，北野正文（2005）医療系大学在学中の学生の自己教育力の推移．保険学研究雑誌．2:95-108.
- 舟島なをみ，杉森みどり（2002）看護学教育評価論．文光堂，東京．
- 牧野典子，中山奈津紀，堀井直子（2009）生命健康科学部学生の自己教育力．中部大学生命健康科学研究所紀要．5:21-28.
- 松澤洋子，鈴木恵美子（2009）看護大学生の自己教育力に関する研究．自己教育力の学年による違いと卒業後の進路決定．大阪市立大学看護学雑誌．6:19-26.
- 文部省編（1983）「自己教育力」の育成などの視点を提起—中教審教育内容等小委員会が審議経過報告—．文部時報．26-43.
- Tanner CA（2000）学習者の個別性に応じた看護教育．日本看護学教育学会誌．3:39-49.

## Report

# **Attempt and the practice of the class method to improve Self-Directed Learning ability among nursing students: Content analysis of feedback from students towards the class method with accumulating achievements**

Kyoko Koiso, Midori Nagashima

Department of Nursing, Faculty of Medical and Health Sciences,  
Tsukuba International University.

## Abstract

This study aimed to improve adult nursing classes by clarifying the relationship between the class method with preparative tasks and self-directed learning ability among nursing students. Participants were nursing students in their 2nd grade. Analyzed data was the feedback from the participants concerning the class method which were gathered after classes. Written sentences were coded, contents were categorized, and then analyzed to clarify the benefits from the class method. As a result, 35 codes were constructed, 12 categories were formed, and they were summed up in the following 3 major categories: effectiveness of the class method, usefulness of the materials, and problems to be solved in the future. The learning method which provided small tasks as preparation and making students accumulate achievements helped them foresee next class contents and improve their motivation towards classes. The following things were suggested; that the learning method improved learner's intrinsic motivation, increased frequency of use concerning libraries enhanced learning environments and methods, and that the learner's intrinsic motivation contributed to rearing self-directed learning ability. (Med Health Sci Res TIU 4: 41-50 / Accepted 10 Sep, 2012)

**Key words:** Nursing students, Self-Directed Learning ability, Learning method, Class method